

社会貢献・地域連携推進事業

公開講座

広島文化学園大学看護学部公開講座報告

教育課程委員会

前信由美、加藤重子、藤原 隆、進藤美樹、今坂鈴江、佐藤敦子、迫田千加子、
林 君江、小林浩美、久保泰子、山田晃子、久保田直子、藤尾順子

平成 28 年度広島文化学園大学主催公開講座(いのちの講座)は、呉市共催と新老人の会 広島支部 呉ランチ後援のもとに以下のごとく開催された。

1. 日時：2016(平成 28)年 9 月 24 日 (土)
音楽演奏会 13：20～13：50、講演 14：05～15：30
2. 場所：くれ絆ホール
対象：本学学生・地域住民・病院関係者 計 408 名
3. 講師 筑波大学 名誉教授 紙屋克子先生
講演題目：人間の尊厳とヒューマンケア
ー経験知からエビデンスの構築へー参加者：308 人
4. 趣旨と概要

本学では例年、「命」をテーマとして看護学部公開講座を実施している。昨今の医療の進歩に伴い命は取り留めたものの意識障害が遷延化した方や超高齢化の日本において要介護 4～5の方が増え続けている。このような方々には寝たきりではなく、家族の一員としていきいきと生活できるための支援が必要と考える。そこで今年度は、人間の力強さや可能性を引き出し、諦めない看護を実践されている紙屋先生の体験を通して、人間の尊厳とヒューマンケアについて講演をお願いした。以下は紙屋先生の講演内容である。(原文のまま)

世界に例を見ない早さで進行する我が国の少子・高齢社会、疾病構造の変化に伴って医療および看護に対する社会のニーズも、多様な側面を見せるようになりました。とりわけ、現代社会がその価値観を大きく変換させた影響は、医療・看護界においては **Informed consent(I C)** 法理の導入や Q O L 思想の重視というかたちで、これまで以上にケアに対する関心の高まりとなって表われています。

高度医療が国民にもたらした恩恵には図り知れないものがある反面、救命や延命と引き換えに、しばしば“不本意な生きかた”を強いることもあります。疾患の後遺症や治療過程の底運動による廃用性障害のため、また意識障害が長期化した患者さん達の施設、あるいは在宅療養への移行が進められています。しかし、こうした人々の現状は、Q O L の高い生活を継続するために必要な看護・リハビリテーションを受ける機会も少なく、支援制度も十分には整えられていません。

わが国では、看護の必要性については広く知られているものの、その役割については十分に理解されているわけではありません。その一方で、社会の多様なニーズに応えるために看護を取りまく周辺領域には新しい有資格職の誕生が相次いでいます。看護者が行う日常生活支援の中には、理学・作業療法士をはじめとする専門職から、ひいては素人の家族さえできる行為まで、幅広い技術の存在が確認されます。しかしながら、生活支援の専門職として看護者が提供する技術には人間の尊厳を護るヒューマンケアとしての目的・方法・効果の期待において、明確な違いがなければなりません。

もし、人がなんらかの理由によって、自らの意志と能力で生命と生活をコントロールできなくなったとき、その人の人間としての尊厳を損なうことなく、地域社会で生き抜いてゆく“ひと”としての生活と人生を支えてゆく専門的な看護活動が必要です。すなわち看護者には、従来のケアを提供し継続するだけにとどまることなく、家族や介護に関わる人々が共に暮らせることを喜びとできるような生活支援の方法を開発し、提供することが期待されています。

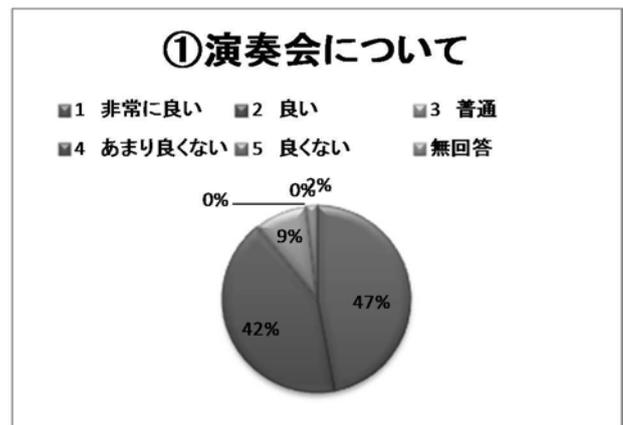
日々くり広げられる看護実践の経験知に科学の光を当て、成果を確認することは患者への貢献と共に、職業人としても誇りと喜びを見いだす活動になるはずです。専門職として時代の要請に応えると共に、人間の生命力と可能性を引き出す看護の役割と力について、最近の実践と研究成果から、エビデンスの構築へ向けて検討する機会にしたいと思います。

5. アンケート結果

来場者	実習施設関係	6人	
	新老人の会	5人	
	一般	144人	
	学生	253人	合計 408人

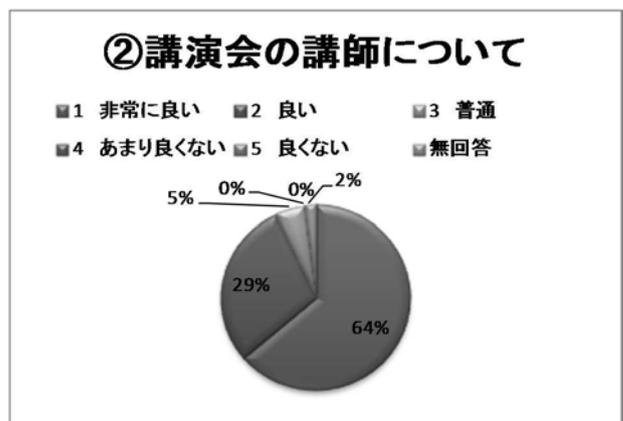
①演奏会について

1 非常に良い	48人	47%
2 良い	43人	42%
3 普通	9人	9%
4 あまり良くない	0人	0%
5 良くない	0人	0%
無回答	2人	2%
合計	102人	



②講演会の講師について

1 非常に良い	65人	64%
2 良い	30人	29%
3 普通	5人	5%
4 あまり良くない	0人	0%
5 良くない	0人	0%
無回答	2人	2%
合計	102人	

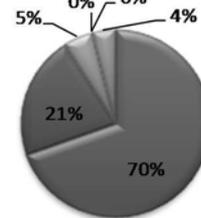


③講演会の内容について

1 非常に良い	71人	70%
2 良い	22人	22%
3 普通	5人	5%
4 あまり良くない	0人	0%
5 良くない	0人	0%
無回答	4人	4%
合計	102人	

③講演会の内容について

■1 非常に良い ■2 良い ■3 普通
■4 あまり良くない ■5 良くない ■無回答



<演奏会について>

- ・学生さんの演奏を聞かせて頂きストレスが発散しました。
- ・演奏会が大変良かったです。
- ・事前演奏会は良かったです。講演会前の心を和らげてくれました。楽しい曲でした。
- ・ファンファーレは立ちななめ上に向かって吹いてもらっていたらもっと良かったように思います。トランペット・トロンボーン
- ・演奏会いつも楽しく聞いています。

<講演について>

- ・今日お話が聞けてとてもよかったです。親類の人の為に少し役立てたいと思います。
- ・素晴らしいご講演でした。生きることの大きさ深さ大事さ、それに向けての周囲のケア、支援のありようをも課題として学ばせていただきました。ありがとうございました。
- ・私は主人を約15年介護していますがところどころ私達の介護をするのに勉強になりました。今からいろいろ取り入れてみるつもりです。本当にありがとうございました。
- ・一部の人だけに技術を充分手当しているので皆に通用する訳ない、介護している方としては不満が残る状態で残念でなりません。皆、決められたことしか手当をしないことに残念に思う！！まるで夢のような話でした。
- ・自分は言葉が聞き取りにくいのですが写し出されたのをみながらでしたのでとても良かったです。
- ・専門的で少しむずかしかった。人間の尊厳をたもつ事は大事だと言うが事が解った。
- ・感動しました。(5人)
- ・若い世代からの勉強が最優先です。浸透性、具体的な説明でした。
- ・私も高齢になり今日のお話はとても参考になりました。私は延命治療は望みません。子供達にも伝えていきます。看護のプロ、すごいなあ～と思いました。看護の力は思いがけないことを発する。

- ・看護力のすばらしさはデータをこえてキセキがおきるとわかった。脳死状態でのゾウキイシヨクは可か不可か疑問がうまれた。大変有益な話を聞くことができてよかった。脳死状態でもキセキ的に意識がもどる事例が TV 等で放送され人間の生命力におどろく。
- ・知るは本当楽しみですね。とてもお話がきけてよかったです。
- ・時々むずかしい言葉がありました但全体的にいいお話でした。
- ・長いお話 早口が気になった。話はとてもよく分かりました。
- ・とてもよい機会に出会えたことに感謝します。
- ・看護学生は勉強しています。地域社会どんどん変化してきている。技術と知識が認められないので人から愛されるよう勉強が大切だと感じました。相手の気持ちになって接することが人間の尊厳につながると思いました。
- ・医師の役割と看護師の役割
- ・看護についてとても深く考えることができました。かけがえのない命、生活によりそってとてもすばらしい看護を提供されてすごいなと思いました。
- ・介護の現場でリハビリをすれば生活機能が維持できるケースをたくさん見ましたが、本人、まわりの人の意識が低く、アドバイスを打っても受け入れてもらえず、どうすればいいかと悩むことが多かった。先生の実践力はすばらしいと思いました。
- ・「生きること」について人とのコミュニケーションを通じて感じさせることが多くあり、これからの人生で考えさせられることがありました。
- ・可能性は大！望みはすてないこと。実践あるのみ。
- ・看護に心からよりそいの出来る心を持ちたいと思いました。
- ・96才の母の世話をしています。関わり方で変化をもたらすことは実感していますが、今日の講座でプロの方の力もかりながら今後もつづけられたらいいと思いました。すばらしい講師のお話が聞けてよかったです。ありがとうございました。
- ・若い患者の例が多かったのでやはり老人では難しいのかなと思いました。施設で老人にも同じようにいたれりつくせりのリハビリが求められ困る事もあります。
- ・久しぶりに看護に感動しました。ありがとうございました。
- ・紙屋先生すばらしい。私もこう生きています。リハビリウォーキング毎日頑張っています。主人が腰痛ですが医師に病気ではないと言われリハビリをどうもなかなか困っています。
- ・生きることをあきらめない心も必要ですね。看護をする事があつたら今日の講演を思い出して頑張ります。
- ・紙屋先生の講演とても感動でした。ありがとうございました。
- ・看護の心と技能の大切さ、寝てばかりではなく歩く、立つ、口から食べる基本的なものの大切さがわかった。家族や看護師、本人の連携の大切さがわかった。
- ・すばらしかったです
- ・紙屋先生のお話をきけると知って県北から参りました。看護職ですが忙しさに心を失ってしまつて自分は何をしたいのかモヤモヤしています。でもやっぱり紙屋先生の情熱が大好きでそのパワーがいただきました。かつたのですが、同時にやっぱりこの仕事が好きだと改めて思いました。今幸せな気持ちです。心がちょっと元気になりました。私も NICD を学びに行きたい

です。

- ・本日は大変勉強になり、久しぶりに感動を致しました。
- ・看護の大切さがよく解りました。どんなになっても最後まで希望を持つことの大切さがよくわかり、ありがとうございました。
- ・弟が事故で全身意識障害になっています。今日のお話は大変胸につまりました。話はわかるんです。家族で一生懸命キセキを信じてよくなることを祈っています。
- ・人生の出会いについて考えさせられました。
- ・献身看護をと・・・
- ・大変感動的な時間をありがとうございました。心より感謝申し上げます。
- ・手紙の中にあった患者さんからの言葉に感動しました。一人の人としてその人らしい生活という言葉の意味を深く考えることができました。ありがとうございました。
- ・時間が経つのも忘れて先生のお話を拝聴しました。看護師があきらめたら・・・という先生の NHK スペシャルの言葉をいつも思い出しながら次世代の NS の育成に頑張っています。また一つ、元気、勇気を頂きました。
- ・涙が出ました。2014 年北海道で先生のお話を聞いて感動したことを思い出しました。2015 年重心児（者）へのムーブメントを先生の本や文化学園大学の先生にご指導、ご参考させて頂いて研究をまとめさせて頂き、本日を楽しみにしておりました。もっと聞きたかったです。ありがとうございました。
- ・自分たちは何ができていただろうか、業務にばかり流されて深く本人さまやご家族の希望に沿えた看護が行えていただろうか・・・と考える機会となりました。
- ・エビデンス 看護の力はすごいと思いました。医師の指示のもとでの看護を重視していた。
- ・看護師の誠意と自発性を今更ながら
- ・リハビリの見方があるかも

<運営について>

- ・会場・着席までのアプローチに細やかな配慮がされていていい気持ちで参加できうれしかったです。

<今後の希望講座>

- ・認知症の事が色々知りたい。
- ・認知症にかかわるお話（理解と対応について）
- ・認知症予防講座
- ・これから先自分はガンとか認知症になりたくないの予防に関する事など聞きたいです。孫に聞かせたいです。
- ・終末期の看護について
- ・リハビリテーションについて 終末期リハビリテーションの意義について理解を広げてほしい。
- ・緩和ケアについて 看取りについて 施設でのリハビリについて

- ・在宅医療の現状について（終末期医療も含む）
- ・現在呉市では65才以上は3人に1人と言われています。これからの高齢社会に対して運動不足による廃用症候群にならないための講座をお願いします。
- ・健康について 地域社会とのつながりなど
- ・健康寿命（生きる力）（講座のテーマとは程遠いですが）
- ・福祉生活など
- ・時宜に応じた問題
- ・鎌田実先生 日野原先生
- ・瀬戸内寂聴 現代の人生のあり方について
- ・このような看護界で有名な先生を招いてくださりありがとうございます。次回も呉に来ていただけるなら教育的講座を希望します。
- ・毎年来ています。楽しみにしているので講演内容はお任せします。

今後も「いのちの講座」から本学部の教育理念である、生命に対する畏敬の念と倫理観に基づいた行動が出来る感性豊かな人間を育成すること、グローバルな視点を持ち、専門的知識と実践能力を有する看護専門職者を育成する事ができるように公開講座を開催していく事が必要である。